

「おいしい」から広がる～ 酪農家のお母さんの知恵と笑顔

農村生活文化伝承活動を進める会

会 長 池田 佐代子さん (いけだ さよこ)

副会長 長尾 きよ子さん (ながお きよこ)

会 計 本間 美 嘉さん (ほんま みか)

農山漁村における地域の活性化や、個性的で魅力ある地域づくりの優れた活動を紹介するシリーズ。

今回は「わが村は美しくー北海道」運動第7回コンクールで特別賞を受賞した「農村生活文化伝承活動を進める会」の皆様にお話を伺いました。

《イタドリとの出会い》

豊富町は、北海道の北部に位置し、人口よりも圧倒的に乳牛の数が多く「牛乳のまち」です。また、日本最北の温泉「豊富温泉」があり、奇跡の湯治場として知られています。

始まりは昔ながらの農村文化を次の世代に伝えたいという想いからの活動でした。昔、青森からお嫁に来られた方の地域では、イタドリをフキの代用に食していたことから、「豊富町にたくさんあるイタドリで何かできれば」と考えたのが始まりで、もしこのアイデアがなかったら、イタドリの加工品も、この活動もなかったかもしれません。当初は各地区で個々に収穫し、塩蔵したものを持ち寄って調理や伝承展を行っていました。平成14年、会員同士で手作りの「工房」を立ち上げたことをきっかけに、収穫から下処理、塩蔵まで会員全員で協力して行う体制が整いました。

《5月が勝負！》

毎年5月20日前後、会員の長年の経験で日程を決めて収穫します。イタドリは一晩で一気に10センチも伸びるため、固くなる前に刈り取ります。収穫したイタドリは、一本一本しっかりと状態を見極めながら、すべて手作業で行います。このような丁寧な手作業こそ、イタドリの美味しさを支えています。



イタドリの下処理・塩蔵作業



《世代を超えて集う憩いの場》

現在、酪農家のお母さんたちを中心として約15名で、最高齢の90歳代から30歳代の若手まで幅広い世代で活動しています。定期的な集まりはありませんが、イベントが近づくとみんなで集まりワイワイと相談しながら活動を進めています。

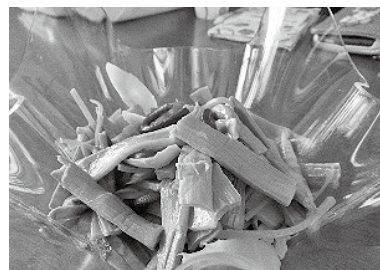
《食を通じて地域とつながる》

年に3～4回、伝承展や豊富町観光協会と協力し、ランチ会などイベントに参加します。伝承展は今年43回目を迎えます。毎年、自慢のイタドリの加工品や焼き菓子を提供したり、90歳代のお母さんが真心を込めて育てた美味しい野菜も並び、多くの人で賑わいます。また、地元のお母さんたちを対象に、漬物講習会や保存食の料理教室を開催しています。「どうやって食べるの?」と聞かれば、山菜の食べ方や食の魅力を伝えています。声をかけてもらえれば、どんどん協力していきたいと思っています。

集まって活動するのがとにかく楽しいし、先輩のお母さんたちからいろんなことを教えてもらい、そして次の世代へつないでいく。いろんな人と話ができることが、私たちの一番のパワーになっていますと素敵な笑顔でお話してくださいました。豊かな自然の恵みと先人の知恵、イタドリの加工品には、お母さんたちの情熱がギュッと詰まっていました。



マスコットキャラクター
大地くん



イタドリの和え物

当協会ホームページ、「わが村は美しくー北海道」運動第1～9回受賞団体の活動概要をまとめた冊子『生産空間の活性化に資する地域事例集』をご覧ください。

